



# 2022黒羽学園 コミュニティ・スクールだより NO5

R5. 2. 20 文責: 広報部担当 須賀川小学校長 佐藤 慶子

## 小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体化して推進

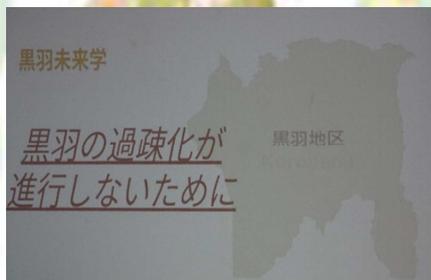
2月16日(木)、黒羽中学校において、本年度最終となる第5回学校運営協議会が開催されました。このたよりでは、会の様子の一部をお伝えいたします。学校運営協議会は、学校だけでなく、保護者、地域住民も学校経営に参画し「地域とともにある学校づくり」を通し、子供たちの「人間性・学力・コミュニケーション力・社会適応力」の育成と向上を図ることをねらいとし、小中一貫教育と一体化して推進できるよう努めています。黒羽学園は、学校と地域が連携・協働した活動をさらに推進させるため、本年度より小中一貫教育目標を「黒羽と人と地を育む教育の実現」に変更して実践しています。会の始めに、黒羽学園小中一貫教育目標に関連した黒羽中学校3年生の総合的な学習の時間の学び「テーマ：黒羽未来学」の発表が行われました。

黒羽にたくさんの人が訪れるような人気スポーツ動画を作成し、生き生きと発表した生徒↓



「黒羽を長続きさせるためにキャンプ場やテーマパークを作ってはどうか。」と提案↓

廃校の有効活用を投げかける生徒↓



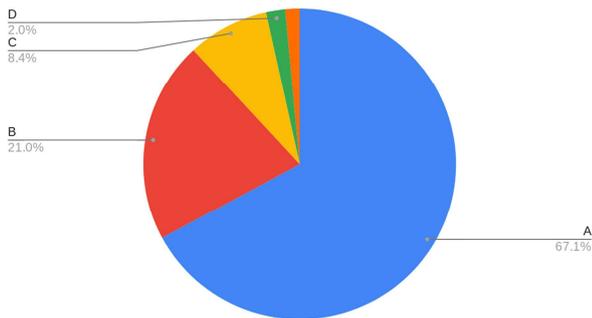
## 学校評価を学校運営に反映させて

評価部会より、各校の児童生徒・保護者・教職員の学校評価のまとめの報告が行われました。学校運営協議会自体の評価も報告されました。会の中で、話題となったデータがありましたので、一つ、御紹介いたします。

### 児童生徒への質問

「自分の住んでいる地域は好きですか？」  
に対して肯定的に答えた児童生徒は  
(青と赤の部分) およそ88%です。

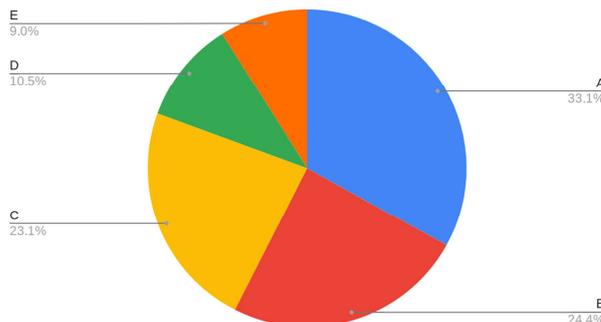
⑬自分の住んでいる地域は好きですか。



### 児童生徒への質問

「将来、黒羽に住んでみたいと思いますか。」  
に対して肯定的に答えた児童生徒は  
(青と赤の部分) およそ57%です。

⑯将来、黒羽に住みたいと思いますか。



委員から「黒羽地区の児童生徒が、自分の住んでいる地域が好きで、将来、黒羽に住んでみたいと思えるよう、実現可能な試みをする必要がある。」との意見が出されました。

今後、学校評価結果は、各小中学校において分析し、学校運営に反映させていきます。

最後に、大田原市教育委員会 大類 仁 指導主事より次のような指導助言をいただきました。

### ○本日の黒羽中学校3年生の発表について

黒羽学園は、学校と地域が連携・協働した活動をさらに推進させるため、本年度より小中一貫教育目標を変更した。黒羽学園小中一貫教育目標「黒羽の人と地を育む教育の実現」の達成に向けての実践であり、生徒の将来の自立につながる内容であり、自立に向けてのよい機会であった。

### ○地域の課題、思いの共有

学校評価結果に対して、保護者から建設的な意見が出された。「黒羽地区の児童生徒が、将来、黒羽に住んでみたいと思えるような実現可能な助けは何か。」課題の共有ができたのではないかな。

今後、この協議会や下部組織で熟議し、実行に移されていくとよいのではないかな。

### ○本年度の学校運営協議会について

黒羽学園小中一貫教育とコミュニティ・スクールの安定感が出てきている。黒羽地区は、大田原市の半分を占める。児童が地域を知るためには、人とお金が必要。「どんな助けができるのか。」令和5年度に検討が必要である。

